

ななかわ

那珂川町郷土史研究会



カワセミ橋周辺

景に、一瞬足が立ちすくみました。『本書紀』の時代をはるかに越えた古代の驚異を目の当たりに体感できました。「現地に来てこの崖の前に立つてください」と叫びたくなります。

また、崖の表面には無数の小さな穴が見えます。これらはおそらく「カワセミ」や「ヤマセミ」の巣穴であります。今でも三度の食事の時間帯になると、どこからともなく「カワセミ」が飛んで来て、見事なダイビングを披露し散策の人々を楽しませています。豊富な魚が泳ぐ溝の恵みを知つていて「カワセミ」たちは、きっと近くで巣穴を作り存在をPRしているのでしょうか。

「下御所橋」を過ぎると、溝の右岸沿いに立ちはだかるように、切り立った崖が下流に向かつて続きます。この一帯は、安徳台の山裾が溝に迫り道もなく、雑木等で全く人が近づけない場所でしたが、今回の水路改修に伴う遊歩道工事で雑木が払われ、一舉に陽射しが差し込みました。

ここでは、古代の地層を見ることができます。この地層は、今から約9万年前に阿蘇で起つた大噴火によつてもたらされた、火碎流の堆積層の跡です。崖の高さ約6m、長さ133mと続き、途中直角に右折し東へ向かい「町道山田松木線」の道路に突き当たるようにして続っています。この崖を初めて見たとき、これまで想像もおよばなかつた光

ができます。この崖は、壁面の崩落を防ぐため、ルートバイル工法による強化が行われ、水面下では水の勢いで崖面が削り取られるのを防ぐため、「洗掘防止法」として「蛇かご」が設置されました。この崖の対岸に設けられた板張り敷の遊歩道（木道）を進むと、「カワセミ橋」があらわれ、これを渡ると「カワセミ公園」があります。公園には「東屋」があり、弁当を開いている家族連れも見かけようになります。また隣接する駐車場に車を置いて上流へ向かう人もあり、散

策路の情報交換の場所として賑わっています。

裂田溝は、この辺りまで安徳台の東側の山裾に添つて流れていますが、すぐ下流にある「こぶの口」で二つに分かれて、東隈方面と安徳の針口方面へと進みます。

今年の3月23日に「裂田溝改修記念事業」として植樹が行われました。

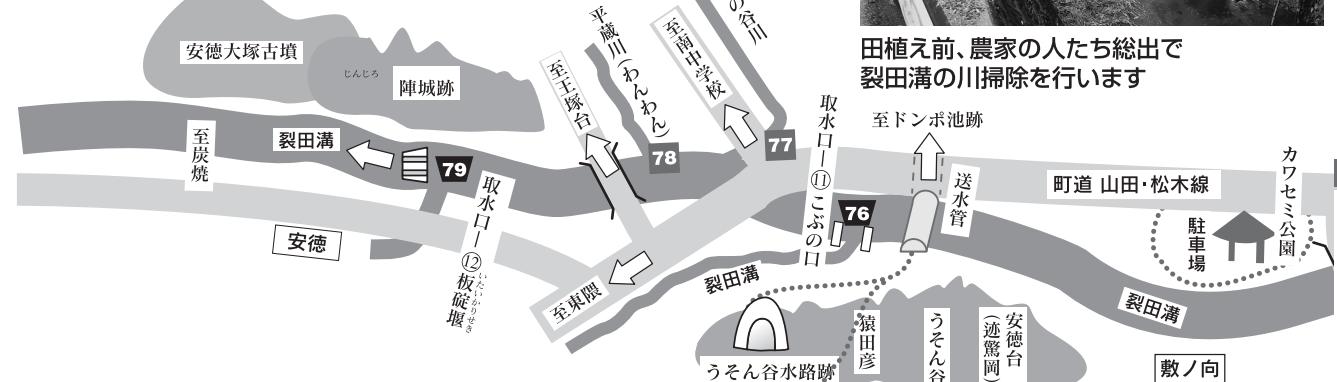
水辺沿いには「イロハモミジ」3本と「マテバシイ」1本が植えられ、溝の水に守られて青々と繁っています。この西側の安徳台も、阿蘇の火碎流によつて形成された台地です。台地には奴国を代表する弥生時代の遺跡があり、これまでの調査で中期から後期初めにかけての集落と、中期後半の墓地が見つかっています。この2号住居は、日本最大級の大きさで、青銅器の鋳型や勾玉など重要な遺物が出土しています。墓地は甕

俊岳の城山巡れば眼の前に
行く手遮る天狗大岩

マサ子



溝清掃（川底に溜まった砂上げが大変です）

田植え前、農家の人たち総出で
裂田溝の川掃除を行います上空から見た安徳台
(那珂川町の文化財XVII年より)カメ棺出土状態
左の5号棺は女性、右の2号棺は男性が埋葬されています
(那珂川町の文化財XVII年より)

コースメモ

75. 橋 - 26 (カワセミ橋)
↓
次号へ 安徳台西側周辺

史跡メモ

9万年前の地層
(阿蘇山火碎流)
安徳台(迹驚岡)
弥生時代中期の住居跡
(大きさが日本最大級)
有力首長の墓
43個以上のゴホウラ貝の腕輪
カワセミ公園



9万年前の阿蘇IV火碎流の堆積層の崖



カワセミ橋 長さ10.57m 幅2.3m 高さ1.1m



約9万年前の阿蘇IV火碎流の崖面(工事前)

